



熊本市 感染症発生動向調査 速報



●水痘(みずぼうそう)について

水痘が前週より少し増えています。

水痘は、水痘-帯状疱疹ウイルスによる感染症で「みずぼうそう」として知られている病気です。9歳以下に多く、年中みられますが、12月~7月に多い傾向があるため、これからも注意が必要です。



◆どんな病気？

・**症状**……全身性のかゆみを伴う発疹と、38℃前後の発熱が主な症状です。発疹は、まず赤い斑点ができて(紅斑)、次第に盛り上がって(丘疹)、水ぶくれになり(水疱)、かさぶた(痂皮)になります。これらの紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在しているのが特徴です。通常、軽症で終生免疫を得ることが多いですが、ウイルスは治ったあとも体の中に潜伏していて、のちに「帯状疱疹」として再発することがあります。

・**潜伏期間**……2週間程度(10~21日)

・**感染経路**……**空気感染**、飛沫感染、接触感染。すべての発疹がかさぶたになるまで感染力があります。また、感染力も強く、1人が何人に感染させるかを示す数値(基本再生産数Ro)では、インフルエンザが「(Ro)1-2」に対し、水痘は「(Ro)8-10」と、インフルエンザの約5倍の感染力があります。

◆かかったらどうすればいいの？

・治療は塗り薬が中心になります。重症の場合もしくは重症化の防止として、抗ウイルス剤を使用することもあります。早めに医療機関を受診しましょう。

・熱が高いときは特に、水分をしっかりととり脱水にならないように気をつけましょう。発疹が出たあとも高熱が続いたり、ぐったりしているときは医師に相談しましょう。

・水痘は、学校保健安全法により第二種の感染症に指定されており、原則としては、すべての発疹が痂皮(かさぶた)化するまで出席停止とされています。(病状により、医師が感染のおそれがないと認めたときを除く)

◆予防法は？

・予防接種が有効です。平成26(2014)年10月1日から、水痘ワクチンが定期接種となりました。



期 間		2022年 24週		2022年 25週	
		6/13~6/19		6/20~6/26(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症		1	0.06	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)		4	0.25	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	0.38	4	0.25
感染性胃腸炎		89	5.56	90	5.63
水痘(みずぼうそう)		0	0.00	4	0.25
手足口病		1	0.06	3	0.19
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		16	1.00	13	0.81
ヘルパンギーナ		0	0.00	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		1	0.06	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		0	0.00	3	0.60
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00